

[様式14]

(対象事業：4) 地域振興と一体となったミュージアム事業

事業名：ランドマークとしての博物館
(商店街と博物館の連携事業)

事業者名：ランドマークとしての博物館（商店街
と博物館の連携事業）実行委員会
(名古屋市博物館内)

連携事業館名：瑞穂通商店街振興組合
大須商店街連盟

住 所：名古屋市瑞穂区瑞穂通1-27-1

TEL：052-853-2655

FAX：052-853-8400

HPアドレス：<http://www.museum.city.nagoya.jp/>



①施設概要

名古屋市博物館は昭和52年に開館し、昭和53年に常設展を開設、昭和61年に国宝・重要文化財の公開指定館となる。尾張地方に関する考古・美術工芸・文書典籍・民俗分野の資料約21万点を収集する。

②事業の意図目的

名古屋市域の商店街と博物館が連携してイベントを開催し、イベント来場者が博物館に親しみ、そこで得た情報を基に商店街等の地域とネットワークをつくることにある。その中で博物館がランドマークと認識されることを目指す。

③事業概要

以下のイベントを開催した。

- 1 「夕涼み はくぶつかんの七夕まつり」平成19年8月3日（金）～5日（日）
旧暦七夕という年中行事を通して博物館に親しむ。昔懐かしく親子で楽しむ野外映画会、短冊で彩る七夕飾り、庭園をロウソクで彩る「はくぶつかんに天の川出現」を行った。
- 2 「豪華絢爛江戸絵巻 花魁道中とお鯨祭り」平成19年9月30日（日）
特別展「大にぎわい 城下町名古屋」と関連するイベントを行った。尾張藩7代藩主徳川宗春治世の遊郭と関連するイメージで花魁道中を行い、60年に1度流行するお鯨祭り行列を行った。「豊年」を祝うお鯨祭りは、平成19年が該当年であり、博物館で祭り行列を行うことで、来館者にお鯨祭りを認識してもらった。

④事業の製作物及び報告書等

事業の製作物 テキスト ワークシート その他（チラシ・イベント成果報告書）
作成した報告書等

その他（イベント成果報告書「ランドマークとしての博物館（商店街と博物館の連携事業）」）
（チラシ「豪華絢爛江戸絵巻 花魁道中とお鯨祭り」）

⑤参加者状況

内 訳	参加者人数	延べ3,535人（お鯨祭り行列参加者220人含む）
	夕涼み はくぶつかんの七夕まつり	2,315人
	豪華絢爛江戸絵巻 花魁道中とお鯨祭り	1,220人

(1) 事業の実施状況について

① 夕涼み はくぶつかんの七夕まつり 8月3日(金)～5日(日) 19時～21時

昔懐かしい野外映画会、旧暦七夕にちなんだ「はくぶつかんに天の川出現」、七夕飾りを実施した。

・8月3日(金) 野外映画会 「(たのしいおはなしシリーズ) アンパンマンまじよのくにへ・アンパンマンとばいきんまん」「ロボッツ」を上映。入場者 315 人

・8月4日(土) 5日(日) はくぶつかんに天の川出現 博物館庭園にロウソク 1,000 本を並べ、天の川を再現。ロウソクの火が消えないよう風よけ用のフードをペットボトルや紙で製作した。7月14日(土) 15日(日) の2日間、博物館展示説明室でフードに絵を描く準備会を催し、小学生を中心に 60 人が参加した。また、近隣の汐路小学校の児童約 500 人が製作したフードも天の川出現に用いた。

入場者 8月4日 1,000 人 8月5日 1,000 人

・8月3日(金)～5日(日) 七夕飾り 博物館入口のプロムナードに笹を立て、短冊等で七夕飾りをした。願い事を書く短冊は商店街、博物館で配布し、7月31日(火)以降、笹を立てて自由に飾れるようにした。



①



②



③



④



⑤

- | |
|----------------|
| ①野外映画会 |
| ②天の川・七夕飾り準備会 |
| ③④はくぶつかんに天の川出現 |
| ⑤七夕飾り |

②豪華絢爛江戸絵巻 花魁道中とお鯨祭り 9月30日(金) 12時～15時

特別展「大にぎわい 城下町名古屋」の関連イベントとして花魁道中を行った。尾張藩第7代藩主徳川宗春は、幕府の倹約政策と対象的に消費政策を奨励した。中には遊郭も含まれ、江戸時代の名古屋城下で唯一、遊郭が公認された時期であった。展示で取り上げた宗春をよりイメージできるように企画したのが花魁道中である。演じたのは大須の劇団スーパー一座。大須商店街で毎年秋に行われる大須大道町人祭の花形出し物で、大須以外では滅多にみられない催しに多くの人が博物館に詰めかけた。

お鯨祭りは60年に1度、主に中部地方で流行する。平成19年は流行年にあたり、翌20年にかけて尾張西部の愛西市、海部郡美和町等で盛んに行われている。江戸時代の文政10年(1827)のお鯨祭りは、大きな作り物や仮装、踊り等で賑やかな行列を出した。この時は伊勢外宮の御師が流行を促し、豊年を祝い喜ぶ祭礼であった。本イベントでは、文政10年のお鯨祭り再現を目指し、瑞穂通商店街、大須商店街、博物館でそれぞれ行列を演出した。瑞穂通は大神輿、大須商店街は、招き猫、大クジラ、巨大タコ、博物館が大おたふく面である。また、瑞穂通は神主風の衣装や女装、博物館もおたふくの仮装をし、江戸時代の祭り再現に努めた。小雨が降る天候の中、お鯨祭り行列は瑞穂通商店街前の道路を練り歩き、沿道の観客から多くの声援を受けた。お鯨祭りは、伊勢信仰と関わりが深い祭礼なので、祭りの趣向にもみられた伊勢太神楽の実演も行い、イベントを盛り上げた。入場者 1,000 人 お鯨祭り参加者 220 人



①



②



③



④



⑤



⑥

- ①花魁道中
- ②瑞穂通商店街
の大神輿
- ③大須商店街ボ
ランティアの
招き猫
- ④大須商店街の
クジラとタコ
- ⑤博物館の大お
たふく
- ⑥庭園での総踊
り

(2) 地域との連携について

イベントに対する各組織および地域の反応は以下の通りである。

名古屋市博物館 イベント参加者の話によると、これまで博物館に来たことがない人が多かった。本イベント（七夕まつり・花魁道中とお鯨祭り）をきっかけに博物館に来館した観客も多く、博物館としては新しい客層の開拓につながったと思われる。

瑞穂通商店街振興組合 博物館がイベント等で活性化すると商店街も多くの人で賑わうようになる。本イベントで多くの人々が来館したことで、多くの人に商店街のPRができた。今後も積極的に博物館と協力した事業を行いたい。

大須商店街連盟 これまで、大須の中でイベントを行ってきたが、大須の外、博物館で行われた「花魁道中とお鯨祭り」に参加することで、大須のPRができた。これにより、イベント後、初めて大須へ来る人も多く、博物館同様、これまで大須に来たことがない人を商店街に引き込むことができたのは非常に意味がある。また、お鯨祭りは、博物館で行うのにとどまらず10月19日（金）に大須商店街で行った。「大須大道町人祭」の一環として行われたお鯨祭りであったが、瑞穂通商店街振興組合理事長と博物館副館長（実行委員長）が開会式に出席し、お鯨祭り行列に博物館の大おたふくが参加した。博物館が館を出てイベントを行うことは滅多にないことで、地域と連携した新しい交流が本イベントで生まれた。

その他 お鯨祭りは平成19年度が流行年にあたり、10月頃を中心に尾張西部の各地で行われた。実際にお鯨祭りをを行う地域の人々が、博物館や大須で行ったお鯨祭りを見学に来て参考にしたという話を各地のお鯨祭りを調査に行った際に聞いた。博物館が発信した「お鯨祭り」は、瑞穂通、大須の各商店街に浸透したが、実際にお鯨祭りを行った名古屋市周辺の地域にも影響を及ぼした。本イベントの情報が60年に1度の「お鯨祭り」を行ううえで参考となり、活用された意義は大きい。

(3) 成果物について

「夕涼み はくぶつかんの七夕まつり」「豪華絢爛江戸絵巻 花魁道中とお鯨祭り」の2つをまとめたイベント成果報告書を作成した。事業に関する企画書から始まり、「七夕まつり」に関連して行われた瑞穂通商店街の博物館茶屋、大須で10月19日（金）に行われた「平成大須のお鯨祭り」も収録している。

名古屋市博物館、瑞穂通商店街振興組合、大須商店街連盟、同連盟のボランティア等が、それぞれ自分が担当した事業を解説している他、入場者数、取材一覧、イベントを行った成果等をまとめた。

本報告書は、名古屋市、愛知県内を中心とする図書館・博物館・小中学校の他、名古屋市商店街振興組合連合会会員の商店街に発送した。

(4) 参加者の反応

夕涼み はくぶつかんの七夕まつり

ロウソク用のフードを描いた子ども達が自分の作品を探して歩いていた。見つけると「うれしい」と喜んでいて。イベントに参加しているという意識が子どもなりに芽生えたのではないだろうか。野外映画会は、子ども向けの作品を上映したので、親子揃って、最後まで映画鑑賞を楽しんでいた。「毎年、やってほしい」という好意的な感想が多く寄せられている。例年開催している博物館茶屋や盆踊りだけでなく、「イベントが充実して楽しかった」という意見もあり、全体的に好意的な意見が多かった。

花魁道中とお鯨祭り

お鯨祭りのスタッフ、瑞穂通商店街、大須商店街連盟、博物館ともに準備時間が不足したが、限られた時間で作業することで、それぞれ団結力が生まれた。特に大須の場合、10月に控えた大須大道町人祭に向け、町全体の結束が強まったこと、多くのマスコミに取り上げられて大須のPRになったことを喜んでいて。

花魁道中は、大須以外では滅多にみられないので、瑞穂通周辺住民の関心が非常に高かった。小雨により、花魁道中は館内で行われたため、商店街の各店舗から「残念だった」という声が多く聞かれた。お鯨祭りを含め、入場者の関心は高く、イベント目当てに来館した人がかなりの数に上ったと思われる。瑞穂通周辺住民の反応も好評で「博物館でこんなイベントが行われるとは思っていなかった」という驚きの声に続き、「面白かった」という好意的な意見が多くを占めた。

(5) 芸術拠点形成事業を実施したことによる効果

夕涼み はくぶつかんの七夕まつり

地元、瑞穂通商店街振興組合との連携が強まった。商店街とイベントを共催したことにより、地元根付いた博物館のイメージが強くなった。

花魁道中とお鯨祭り

初めはお鯨祭りを知らない人ばかりだったが、準備が進むにつれ、認知度もあがり、イベントが成功したことで、地域住民で祭りを知らない人はいないというぐらいまで盛り上がった。博物館が伝統的なお鯨祭りの情報を発信することで、イベント参加者の歴史文化に対する認識が高まったという意義がある。

また、お鯨祭りを実際に行った尾張西部（愛西市、海部郡美和町等）の地域から、博物館や大須のお鯨祭りを見に来る人も多く、博物館が、尾張西部のお鯨祭りを調査する際に博物館の祭りを見たという声が多数寄せられた。これらの地域に対して、博物館、瑞穂通商店街、大須商店街のPRができ、祭りを通して地域間の交流が実現したのである。博物館、瑞穂通商店街、大須商店街の各地域にとどまらず、イベントの効果が名古屋市外にまで及んだことは、実行委員会にとって予想外の収穫であった。これらの成果を振りかえると、企画当初の「ランドマークとしての博物館」に近づくことができた有意義な事業だったといえよう。

(6) 新聞記事等

夕涼み はくぶつかんの七夕まつり

ショッパー 352号 (南エリア版・中日新聞社) 平成19年7月26日

花魁道中とお鯨祭り

中部経済新聞 平成19年9月17日 朝刊

朝日新聞 平成19年9月18日 朝刊

読売新聞 (読売新聞中部支社) 平成19年9月19日 朝刊 地域 (名古屋圏) (28) 面
名古屋タイムズ (市内版) 平成19年9月21日 夕刊 5面

ショッパー 359号 (南エリア版・中日新聞社) 平成19年9月27日 1面

中日新聞 平成19年10月1日 朝刊 市民 (市民版) 面 【写真①】

読売新聞 (読売新聞中部支社) 平成19年10月1日 朝刊 社会 (30) 面 【写真②】

読売新聞 (読売新聞中部支社) 平成19年10月1日 朝刊 地域 (市内) (29) 面

瑞穂フォーラム 平成19年10月27日 2面 【写真③】

中部経済界 9月号「六十年に一度、人々を熱狂させた豊年祭り」お鯨祭り「この秋大須で再現」 中部経済界 平成19年9月1日発行

スターキャットケーブルネットワーク「こちら！スターキャット情報局」

平成19年10月1日 17時～17時25分 (1分程度放映)

テレビ愛知「速ホウ！」

平成19年10月17日 17時14分～30分 (3分程度放映)

名古屋テレビ放送「UP！」

平成19年10月17日 18時17分～19時 (3分程度放映)

①



②



③

